

日本におけるインクルーシヴ・ダンスの発展背景と今後の課題

内堀 愛菜（日本女子体育大学大学院）

1. 背景

全ての参加者に踊る機会を保障されているダンスとして、インクルーシヴ・ダンスが挙げられる。(Amans, D. 2017 ; Reinders, N.ら 2015) 現在、多様性に関する注目度が世界的に高まる中、年齢、性別、障がいの有無などを問わない多様な参加者によるダンス活動であるインクルーシヴ・ダンスを普及することで、誰もがよりダンスにアクセスしやすい環境をつくりだすことができるのではないかと考える。本研究では特に日本おいての多様な人々とのダンス活動に着目し、舞踊学領域でインクルーシヴ・ダンスの実践者として定評がある者にインタビュー調査を行い、その経験や考えについての語りからインクルーシヴ・ダンスの特徴と課題を明らかにすることを試みる。

2. 目的

本研究では、インクルーシヴ・ダンスの特徴を見つけ、より日本に普及させるための方法と課題について検討することを目的とする。

3. 方法

(1)調査手段

オンラインミーティングツール「zoom」を利用し、非対面での半構造化インタビューを行なった。任意で事前アンケートとして、名前・年齢・性別・職業・経歴等のアンケート調査を行なった。

(2)調査期間

2022年1月～3月

(3)調査対象者

舞踊学領域でインクルーシヴ・ダンスの実践者として定評がある伊地知裕子氏、黒須育海氏、近藤良平氏、砂連尾理氏、鈴木ユキオ氏、竹中幸子

氏、西洋子氏、西村大貴氏、原田純子氏、平原慎太郎氏の10名にインタビューを行った。

(4)調査内容

「年齢、性別、障がいの有無などに関わらず、多様な人々とダンスする実践」についてと、「日本におけるインクルーシヴ・ダンスの普及」についてに関する質問項目を全16項目作成した。

(5)インタビュー内容のデータ化

第一工程として全文逐語録を作成した後に、第二工程としてフィルターワードや吃音等の直接分析に関係しない部分を削除して逐語録を作成。分析には第二工程で作成した逐語録データを用いた。

4. 分析

修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(以下 M-GTA)(木下, 2003)を用いる。

(1)分析手順

第一に、オープンコーディング(分析ワークシートによる概念生成)、第二に、選択的コーディング(複数概念を包括するカテゴリー生成)、第三にカテゴリーの関係性を表す結果図の作成を行う。

5. 今後の予定 (*抄録提出時)

現在、分析手順オープンコーディング(分析ワークシートによる概念生成)まで行った。以降の分析を手順通りに進める。

【引用・参考文献】

Amans, D. (2017) *An introduction to community dance practice*, London:Palgrave.

木下康仁(2003) *グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践*, 弘文堂.

Reinders, N. & Fletcher, P. & Bryden, P. (2015) *Dreams do come true: The creation and growth of a recreational dance program for children and young adults with additional needs*, *Journal of Dance Education*, 15, 3, pp.100-109.